

# 令和3年度

# 広島県畜産要覧

広島県農林水産局畜産課



## 1 本県農業・畜産の概要

(1) 本県は、中国四国地方の中央部に位置し、北部は中国山地に、南部は瀬戸内海に面し、面積は8,479 km<sup>2</sup>で、県土の75%を森林が占めている。沿岸、島しょ部地帯は、年平均気温15℃前後、年間降水量1,200mm未満であるのに対し、北部の山間地域は、年間降水量が2,350mmに達する地域もあり、冬期は寒冷で気温較差が大きく積雪も多い。この変化に富んだ自然条件と温暖な気候を生かし、稲作、果樹、野菜及び畜産など多彩な農畜産物が四季を通じて生産されている。

このような中で、畜産は本県農業生産の核となる役割を果たしており、中山間地域農業・農村の活性化を図る上で、重要な位置を占めている。

(2) 本県における令和元年の農業産出額は1,168億円で、畜産は産出額の40%、467億円を占め、米を抜いて第1位の位置にあり、本県農業の基幹部門として大きな役割を果たしている。

一方、全国順位では、農業産出額は26位で、畜産は17位であり、畜種別では鶏卵の5位を最高に豚19位、乳用牛25位、肉用牛25位、ブロイラー27位の位置にある。

## 2 畜産振興の基本方針

本県の畜産は、古くから和牛を中心として発展し、「和牛のふるさと」として全国に優れた素牛を供給してきた。和牛繁殖経営においては、担い手の規模拡大が進んだことにより飼養頭数は増加に転じているが、小規模零細で高齢な経営体が大半を占めることから飼養戸数は年々減少し、地域

区分	調査年月日	実数	全国順位
農家戸数	15センサス	56,673戸	15
農業就業人口	〃	37,949人	25
(基幹的農業従事者)		31,308人	26
(うち女性比率)		44.0%	18
(うち65歳以上)		80.1%	3
耕地面積	H29	55,300ha	27
(水田)		41,200ha	24
(普通畑)		7,510ha	29
(樹園地)		5,670ha	15
(牧草地)		840ha	22
(耕地面積調査)		(億円)	
農業産出額	R元	1,168	26
畜産		467	17
(乳用牛)		62	25
(肉用牛)		71	25
(豚)		89	19
(鶏卵)		215	5
(ブロイラー)		19	27
米		247	24
野菜		236	31
果実		172	14
花き		26	38
(農業産出額統計)			

の活力低下や生産基盤の脆弱化が大きな課題となっている。

和牛肥育経営においては、これまでの肥育用子牛の高騰による収益性低下が続く中で、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、昨年3月以降のインバウンドの減少や飲食店の営業自粛などにより需要が減少したため、急激に和牛枝肉価格が低迷し、経営悪化が懸念されたが、補正予算による早期の支援対策を実施したことなどにより、秋以降は新型コロナウイルス感染症の発生以前の水準となっている。

酪農、養豚、養鶏経営については、企業的、専門的経営体が育ち、本県が目標としている「生産性の高い持続可能な農林水産業」として、本県の農業生産や県民への安全・安心で良質な畜産物の供給に大きく貢献している。

国内の畜産物の消費については、新型コロナウイルス感染症による影響が懸念される中、加工・業務用の需要は減少しているものの、巣ごもり需要による家庭消費の拡大もあり、牛乳・豚肉・鶏卵などの価格には大きな影響はでていない。

近年の国際情勢では、既に発効されている日豪経済連携協定（日豪EPA）、アメリカ合衆国を除く環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（TPP11）及び日EU経済連携協定（日EU・EPA）などに加え、昨年1月には日米貿易協定が発効し、急速に農畜産物の自由化が進展しており、関税率の引下げによる輸入農畜産物の増大が懸念されている。

一方、国は農林水産物の輸出施策を重点施策として推進しており、昨年の畜産物の輸出実績も前年を上回り、更なる輸出拡大に向け、国際基準に合致した食材供給の仕組づくりの定着を図るため、畜産GAPの取組が積極的に推進されている。

こうした畜産分野を含む世界のグローバル化は、海外からの動物感染症の侵入リスクの増大や海外への和牛遺伝資源の流出といった新たな課題を生み出しており、家畜伝染病予防法や家畜改良増殖法の法令改正が行われるなど、対策が強化されている。

今後の畜産経営は、国連が提唱しているSDGs（持続可能な開発目標）への対応やDX（デジタルトランスフォーメーション）の導入などに取り組み、環境に配慮しつつ生産性の高い持続的な畜産の確立が一層求められる状況になっている。

特に高病原性鳥インフルエンザについては、令和2年度シーズンは国内において50件以上の農場で発生した。昨年12月7日には本県でも初めて発生し、自衛隊を含め多くの関係者の協力により、12月17日防疫措置を完了することができた。しかし、多くの課題を認めたことから、課題整理を行う中で、初動体制を含めて危機管理行動計画を見直し、円滑な防疫措置が講じられるよう検討を進めていかなければならない。

### 3 重点施策

#### ■ 2025 農林水産業APの着実な推進

##### 一 持続可能な広島和牛生産体制の構築 一

- ① 「ひろしま」ブランドの価値向上に資する広島和牛ブランドの確立
- ② 経営力向上による持続性の高い企業経営体の育成
- ③ 生産基盤の強化による広島和牛生産体制の構築
- ④ 畜産施策の阻害要因となる家畜伝性疾病の発生予防

— 安全・安心な農林水産物の提供体制の確保 —

- ① 家畜伝染性疾病の発生予防策の指導，まん延防止措置の迅速かつ的確な実施
- ② 食の安全・安心確保のための動物用医薬品等の適正管理・使用の推進・監視
- ③ 牛海綿状脳症特別対策措置法に基づく死亡牛BSE検査の実施

■ 家畜衛生対策の強化

- ① 広島県危機管理対策運営要領【重大な動物感染症】に基づく危機管理体制の確立  
特に，高病原性鳥インフルエンザ発生時の行動計画の見直し
- ② 畜産現場における重大な動物感染症等の発生予防対策の充実・強化  
特に，豚熱ワクチンの接種計画の策定

## 4 主要施策

### (1) 持続可能な広島和牛生産体制の構築

#### ① 比婆牛のブランド向上

[価値を高める取組]

「比婆牛」がひろしまブランドに貢献する食の代表の一つとなるよう，これまでに得られた価値要素に加え，新たな要素について科学的探究や，料理人への営業実証によるニーズ調査等を実施し，ブランド戦略を策定する。あわせて，この取組を神石牛などの広島和牛銘柄団体と共有することで，広島和牛のブランド向上に資する。

[認知を高める取組]

ア 料理人へのPR，生産者との交流会，SNSなどの情報発信に取り組む。

イ 広島和牛改良目標を基本に，おいしさ遺伝子の導入や広島血統に着目した広島県の強みに資する育種及び種雄牛造成を行い，広島和牛の改良促進を図る。

ウ 『あづま蔓振興会』などによる広島和牛ブランド化の取組，第12回全国和牛能力共進会出品への取組と連携し，広島血統和牛の増頭と認知度向上を図る。

#### ② 企業経営体の育成

[経営者の育成]

ア 企業経営を目指す経営体が抱える課題解決については，チーム型支援や雇用・人材育成などの共通課題解決に向けた経営者セミナー等を通じた支援に取り組む。

イ 経営体の法人化や法人化後の経営発展段階に応じた，専門家の派遣による経営力向上を支援する。

ウ 畜産GAP・HACCPについては，畜産GAP等に取り組む先進経営体の事例について，研修会等を通じ，共有化を図り，モデル経営体による実証導入に取り組む。

エ スマート農業については，推進体制を構築し，適切な導入が図れるよう研修会を開催するなど，導入を推進する。

[100頭以上の生産基盤強化]

ア 繁殖及び肥育経営体の持続的な生産体制を確保するため，市町や関係団体と連携し，酪肉近代化計画や畜産クラスター計画等に基づく生産基盤の強化・拡大を図る。

イ 酪農経営体による受精卵産子を活用した広島血統和牛の供給頭数の拡大を図るため，畜産技術センターで開発された新技術の普及定着を進め，受精卵移植の受胎率向上の取組を推進する。

ウ 後継者不在の経営体の情報を把握するとともに，第三者への経営継承の仕組を構築し，既存の経営資源の有効活用による維持拡大を図る。

エ 比婆牛や神石牛などの地域の取組，第12回全国和牛能力共進会への取組，肉用牛経営安定対策補完事業等，市町や生産者団体等と連携し，広島血統和牛の増頭と認知度向上を図る。

オ 価格変動等に備え，「肉用子牛生産者補給金制度」及び「肉用牛肥育経営安定交付金制度」の活用を通じ，安定的な経営を持続する。

[家畜衛生対策の取組]

- ア 飼養衛生管理基準の遵守指導及び計画的な家畜疾病検査体制の確保により、危害要因を確認し、飼養環境整備を図る。
- イ 畜産GAP等の導入指導を活用しながら、疾病や事故発生リスクを低減した損耗防止を図る。

## (2) 酪農・養豚・養鶏における経営力と販売力の強化

[酪農]

- ア 酪農経営基盤の安定のため、適切な繁殖管理及び乳牛の性判別精液の利用等により乳用後継牛を確保しつつ、和牛の受精卵移植を拡大し、酪農経営の高度化及び収益性の向上を図る。
- イ 酪農経営における持続的な生産体制確立のための畜産クラスターの仕組等の活用による経営力向上や、県内生乳による学校給食用牛乳の供給促進等の取組を支援する。
- ウ 関係団体と連携し、酪農経営体の経営計画に基づく搾乳ロボットなどのスマート農業技術の導入や、第三者経営継承等の生産基盤強化の取組を支援する。

[養豚・養鶏等]

- ア 畜産クラスターの仕組や畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業・機械導入事業）を活用して、経営力の強化を図る。
- イ 飼料用米を有効活用できる取組を進めることにより、付加価値を高め、広島県産応援登録制度を活用して畜産物の販売力強化を支援する。
- ウ 養豚については、国内で感染拡大している豚熱や、国内への侵入が懸念されるアフリカ豚熱に対する防疫対策を強化するため、野生動物侵入防止のための防護柵設置等の取組を支援する。
- エ 鶏卵及びブロイラーについては、高病原性鳥インフルエンザ等の対策に視点を置いた鶏舎整備（ウインドウレス）のほか、鳥インフルエンザ等発生後の事業者の経営再開の取組を支援する。
- オ 養蜂については、飼育届の徹底や転飼調整会議などにより、蜂群の適正な配置に努め、はちみつ等の生産確保を図る。

## (3) 自給飼料の低コスト生産と利用の強化



[自給飼料の低コスト生産と利用拡大の推進]

- ア 飼料価格の動向に左右されない安定的な畜産経営を推進するため、飼料自給率の向上と生産コストの低減により経営の安定化を図るとともに、良質かつ安価な自給飼料生産のため、飼料用稲等の品質向上や奨励品種の活用による単位収量の増大を推進する。
- イ 飼料基盤の充実を図るため、畜産クラスターの仕組等の活用による牛専用混合飼料（TM

R) 及び自給飼料の利用促進並びにコントラクター組織の育成と機械等の共同利用を進める。

#### [耕畜連携による資源循環型畜産の推進]

- ア 水田フル活用による耕種農家と畜産農家との連携を進めることにより、飼料用稲、飼料用米、飼料作物の生産や稲わらの利用、放牧など、土地基盤に立脚した生産構造への転換を促進し、飼料自給率の向上を図る。
- イ 家畜排せつ物の適正管理及び堆肥生産技術等の指導を行い、良質堆肥の生産及び利用の拡大を促進し資源循環型農業を推進するとともに、良質堆肥を飼料基盤や耕作地等へ還元することにより、畜産経営に起因する環境問題の発生を未然に防止する。

#### [畜産経営の環境整備]

- ア 地域において、畜産経営に起因する環境問題の発生を未然に防止し、畜産経営を安定的に継続できるよう畜産農家に対して「家畜排せつ物法」に定める管理基準の遵守を徹底し、関係機関と連携して環境保全指導等を行うとともに、権限移譲を行った市町に対して技術的なフォローアップを行う。
- イ 令和2年度に改正した「広島県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画」により、生産された堆肥の地域内又は広域での有効活用の取組を関係者と一体となって推進する。

### (4) 家畜衛生対策の強化

#### ① 重大な動物感染症に対する危機管理体制の充実・強化

豚熱、口蹄疫、鳥インフルエンザ等の重大な動物感染症が発生した場合において、防疫措置を迅速かつ的確に実施するため、防疫対策組織の充実等、危機管理体制を整備する。

- ア 関係機関（支援部・支援班等）、市町等（危機管理部署等）との連携体制の強化を図る。
- イ 中国地方5県家畜防疫対策の広域連携協定に係る広域防疫体制の充実・強化を図る。
- ウ 昨年度発生した鳥インフルエンザの防疫措置について検討し、9月末を目途に防疫体制を見直す。

#### ② 家畜伝染性疾病の発生予防

##### [家畜伝染性疾病の発生予防の推進]

家畜伝染性疾病の発生を未然に防止し経営安定に資するため、関係団体及び畜産経営者に対し、適切な情報提供及び飼養衛生管理基準の遵守指導を通じ、防疫対策を徹底する。

##### [検査体制の充実]

病性鑑定の診断技術・精度の向上を図るとともに、県内の家畜疾病等の発生状況に応じた検査・予防体制を確保する。

##### [ヨーネ病、牛伝染性リンパ腫対策の推進]

乳用牛及び和牛繁殖牛におけるヨーネ病の撲滅を推進するとともに、本県で継続的に発生が確認されている牛伝染性リンパ腫の拡大防止を図り、経済的被害を軽減するための取組を推進する。

#### ③ 安全・安心な農水産物の提供体制の確保【再掲】

- ア 家畜の伝染性疾病の発生予防対策の指導、まん延防止措置を迅速かつ的確に実施する。
- イ 食の安全・安心確保のための動物用医薬品等の適正管理・使用を推進・監視する。
- ウ 牛海綿状脳症特別対策措置法に基づく死亡牛BSE検査を実施する。

### (5) 和牛遺伝資源の適切な管理の取組

家畜改良増殖法改正により、海外への遺伝資源流出防止を図るため、家畜人工授精所等における和牛精液等の適切な保管・管理体制の整備を助言・指導する。

#### 4 畜産振興の体系・予算

(単位：千円)

畜産関係予算額	286,731 (R 3年度当初)
1 持続可能な広島和牛生産体制の構築	52,339 < 18.3% >
「ひろしま」ブランドの価値向上に資する広島和牛ブランドの確立	(16,375)
酪農・養豚・養鶏における経営力と販売力の強化	(3,750)
自給飼料の低コスト生産と利用の強化	(228)
2 安全・安心を提供する生産体制の強化	155,913 < 54.3% >
安全性確保対策	(155,913)
3 新技術の開発・普及対策	78,479 < 27.4% >
畜産技術センター費	(78,479)

#### 5 参考資料

##### (1) 家畜の飼養頭数

区分	飼養戸数	飼養頭羽数	1戸当たり頭羽数	備考
乳用牛	135戸	8,680頭	64.3頭	農林水産統計(畜産統計R2.2.1現在)
肉用牛	516〃	24,900頭	48.3頭	〃
豚	25〃	110,800頭	4,432.0頭	(畜産統計H31.2.1現在)
採卵鶏	50〃	9,409千羽	137.3千羽	〃
蜜蜂	251〃	5,862群	23.4群	令和2年飼育届(R2.1.1現在)

##### (2) 主要畜産物の県内処理状況及び県内自給率

(単位：t, %)

区分	年	県内生産量 A	県内処理量 B	A/B×100	備考
生乳	31	48,270	67,249	71.8	
牛肉	31	—	8,168	—	(と畜, 枝肉ベース)
豚肉	30	—	5,036	—	(と畜, 枝肉ベース)
鶏卵	31	135,443	—	—	

※ 畜産物流通統計(「畜産振興施策の概要」資料参照)

※ 22年以降, 畜産物流通統計における都道府県別出荷頭数調査が終了したため, 牛肉及び豚肉の県内生産量Aは空欄とした。

(3) 畜産物価格の動向

(単位：円)

年	生乳 1kg	牛肉 (1kg)		豚肉 上 1kg	ブロイラー 1kg	鶏卵M 1kg	子牛 1頭	子豚 1頭
		和牛去勢	乳牛去勢					
平成5	87.1	1,527	955	462	186	157	303,951	21,136
13	82.2	1,455	820	479	173	172	338,674	23,984
14	82.2	1,258	508	488	—	179	335,421	24,408
15	83.2	1,642	858	418	—	157	396,828	16,942
16	82.7	1,786	961	478	—	184	444,545	20,377
17	81.1	1,983	975	478	—	197	474,053	—
18	79.3	2,014	1,041	482	—	180	505,628	—
19	78.9	1,897	940	500	—	181	497,339	—
20	89.0	1,998	865	457	—	209	423,809	—
21	89.6	1,834	798	428	—	180	370,924	—
22	88.2	1,724	685	457	—	193	371,315	—
23	89.3	1,722	640	477	—	199	396,040	—
24	90.3	1,694	622	442	—	179	393,108	—
25	91.0	1,924	783	481	—	202	471,821	—
26	95.9	2,014	858	575	—	217	544,786	—
27	99.5	2,429	1,096	569	—	228	627,111	—
28	101.0	2,700	1,069	527	—	212	795,027	—
29	102.4	2,609	1,038	569	—	209	756,228	—
30	103.1	2,635	1,086	—	—	191	761,433	—
31	105.0	2,572	1,079	517	—	174	751,985	—
令和2						176	663,942	

※ 「畜産振興施策の概要」資料参照

※ H17年から全農広島子豚市場廃止

#### (4) 飼料作物の作付状況

○ 飼料作物

(単位：ha)

年	H6	H13	H14	H15	H16	H17	H18
混播牧草	1,817	950	927	722	778	729	631
イタリアン	1,836	1,164	1,133	1,141	1,130	1,099	1,144
トウモロコシ	539	303	282	251	224	210	126
ソルガム	487	282	259	266	240	224	154
その他	448	391	389	472	512	446	521
計	5,127	3,090	2,990	2,852	2,884	2,708	2,576

年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	R2
牧草	2,030	1,990	1,970	2,110	2,130	2,160	2,130	2,080	2,080	2,070	2,050	1,820
青刈りトウモロコシ	300	277	264	250	225	225	225	214	208	205	170	143
ソルガム	239	233	229	231	199	218	225	222	206	202	209	155
計	2,569	2,500	2,463	2,591	2,554	2,603	2,580	2,516	2,494	2,477	2,429	2,118

※H18年まで：広島県畜産関係諸調査(2月1日現在)

※H19年以降：農水省「作物統計調査」

※H30年及びH31年についてはデータなし

○ 飼料用稲

(単位：ha)

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
WCS用稲	3	32	83	121	111	104	104	107	128	132	159	194
飼料用米	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	13	53
計	3	32	83	121	111	104	104	107	130	135	172	247

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
WCS用稲	229	216	280	449	520	539	553	546	549
飼料用米	64	57	93	375	530	519	410	321	293
計	293	273	373	824	1,052	1,058	963	867	842

※ 畜産課調べ

## (5) 肉用牛の受精卵移植の推移

(1) 体内受精卵移植

(単位：頭)

年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
移植頭数	803	782	669	643	550	468	398	529	613	381	274	322	296	332	304
受胎頭数	323	327	246	237	195	169	156	237	291	209	128	159	143	156	94
年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31									
移植頭数	205	145	113	185	238	179									
受胎頭数	73	49	55	88	90	76									

(2) 体外受精卵移植

(単位：頭)

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
移植頭数	48	154	136	189	272	384	440	269	415	586	683	1,036	1,038	824	828
受胎頭数	12	37	60	82	138	159	195	122	182	255	196	322	287	282	274

※ 家畜改良関係頭羽数等調査

## (6) トレーサビリティの取組み

品目	認証事業者	開始時期
牛肉	全国農業協同組合連合会広島県本部	平成16年11月10日
	有限会社黒瀬拓商店	平成20年7月10日
	株式会社とりわか食品工業	平成22年 2月1日
豚肉	全国農業協同組合連合会広島県本部	平成16年11月10日
鶏卵	全国農業協同組合連合会広島県本部	平成17年2月14日
	広島市農業協同組合	平成17年2月14日
	株式会社アキタ	平成18年7月11日

令和3年4月作成